

JIS

繊維製品の防しわ性試験方法一 第1部：水平折り畳みじわの回復性の測定 (モンサント法)

JIS L 1059-1 : 2009

(JTETC/JSA)

平成 21 年 6 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 消費生活技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	小 川 昭二郎	お茶の水女子大学名誉教授
(委員)	赤 松 幹 之	独立行政法人産業技術総合研究所
	秋 庭 悦 子	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
	大 熊 志津江	文化女子大学
	長 見 萬里野	財団法人日本消費者協会
	加 藤 さゆり	全国地域婦人団体連絡協議会
	加 藤 隆 三	社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	河 村 拓	株式会社西友
	藏 本 一 也	社団法人消費者関連専門家会議
	小 熊 誠 次	社団法人日本オフィス家具協会
	三 枝 繁 雄	財団法人製品安全協会
	櫻 橋 晴 雄	社団法人日本ガス石油機器工業会
	佐 野 真理子	主婦連合会
	鈴 木 一 重	社団法人繊維評価技術協議会
	沼 尻 禎 二	財団法人家電製品協会
	星 川 安 之	財団法人共用品推進機構
	村 田 政 光	財団法人日本文化用品安全試験所
	矢 野 友三郎	独立行政法人製品評価技術基盤機構
(専門委員)	村 井 陸	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 10.8.20 改正：平成 21.6.20

官 報 公 示：平成 21.6.22

原 案 作 成 者：社団法人繊維評価技術協議会

(〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 12-9 滋賀ビル TEL 03-3639-5084)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：消費生活技術専門委員会 (委員長 小川 昭二郎)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	2
5 試験の種類	2
6 試験片	2
6.1 試験片の採取	2
6.2 試験片の寸法	2
6.3 試験片の数	2
6.4 試験片の調整	3
6.5 一般的な条件	3
7 A法（10 N 荷重法）	3
7.1 荷重装置	3
7.2 補助用具	4
7.3 10 N モンサント形しわ回復角測定試験機	4
7.4 A法（10 N 荷重法）の試験手順	4
8 B法（4.9 N 荷重法）	5
8.1 荷重装置	5
8.2 補助用具	6
8.3 4.9 N モンサント形しわ回復角測定試験機	6
8.4 B法（4.9 N 荷重法）の試験手順	7
9 しわ回復角の測定	8
10 しわ回復角及び防しわ率の計算	9
11 試験結果	9
11.1 しわ回復角	9
11.2 防しわ率	9
12 試験報告書	9
附属書 JA（参考）水平折り畳みじわの回復性の測定（針金法）	10
附属書 JB（参考）JIS と対応する国際規格との対比表	13
解 説	17

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人繊維評価技術協議会(JTETC)及び財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS L 1059-1:1998** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権及び出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS L 1059 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS L 1059-1 第 1 部：水平折り畳みじわの回復性の測定（モンサント法）

JIS L 1059-2 第 2 部：しわ付け後の外観評価（リンクル法）

繊維製品の防しわ性試験方法— 第1部：水平折り畳みじわの回復性の測定 (モンサント法)

Testing methods for crease recovery of textiles— Part 1: Determination of the recovery from creasing of a horizontally folded specimen by measuring the angle of recovery

序文

この規格は、1972年に第1版として発行された **ISO 2313** を基に作成し、我が国の防しわ性試験方法の実情に合わせて技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JB** に示す。

1 適用範囲

この規格は、繊維製品のしわに対する生地回復性能をモンサント法によって評価する試験方法について規定する。

なお、この方法によって種類の著しく異なる生地に対して得られた結果を、直接比較することはできない。ある種の生地、すなわち、しなやかで厚くカールする傾向のあるものは、回復角が不明確になりやすく、十分な測定精度が得られないことに注意する必要がある。多くの羊毛及び羊毛混用品がこれに該当する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 2313:1972, Textile fabrics—Determination of the recovery from creasing of a horizontally folded specimen by measuring the angle of recovery (MOD)

なお、対応の程度を表す記号 (MOD) は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、修正していることを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS K 8625 炭酸ナトリウム（試薬）

JIS L 0105 繊維製品の物理試験方法通則

注記 対応国際規格：**ISO 139:2005**, Textiles—Standard atmospheres for conditioning and testing (MOD)

JIS L 0208 繊維用語—試験部門